

登録コード	L1233400	開講年度	2026				
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション特論						
英文授業名	Art Communication: Lecture with Workshop						
授業タイトル	芸術コミュニケーション特論						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			美術史の方法を俯瞰的・批判的に捉えることで、多様な価値観のあらわれを受容し、かつ多角的に判断できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			美術史の方法を俯瞰的・批判的に捉えることで、多様な価値観のあらわれを受容し、かつ多角的に判断できるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			美術史の方法を俯瞰的・批判的に捉えることで、多様な価値観のあらわれを受容し、かつ多角的に判断できるようになる。その学知を介したコミュニケーションを開くことができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	「美術と芸術理論の歴史」と題し、ルネサンス以後の西洋美術・現代美術の流れと、それに関わる芸術理論の展開を論じる。本授業では美術史学の歴史をたどりながら、関連する古今の美術作品を紹介する。また、多様なトピックにもふれながら、問題の範囲・射程を明らかにする。基本的に講義形式の授業ではあるが、数回、小レポートの提出を求める。授業の一部は、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして進められる。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 美術史のはじまり（1） 3. 美術史のはじまり（2） 4. ヴァザーリ（1） 5. ヴァザーリ（2） 6. 17世紀の美術史 7. ヴィンケルマン 8. 19世紀の美術史学（1） 9. 19世紀の美術史学（2） 10. 20世紀初期の動向（1） 11. 20世紀初期の動向（2） 12. 20世紀後期の動向（3） 13. 20世紀後期の動向（4） 14. 「美術史の終焉？」以後の美術史 15. まとめと15分の授業アンケート						
成績評価の方法	小レポート提出と各回授業時の質問票50%、期末レポート50%						
成績評価の基準	レポートについて、授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	事前学習：参考書ないし関連図書を読む。事後学習：授業内容をよくまとめ、期末レポートの準備をすすめる。						
履修上の注意	美術史のながれを、参考書等をたよりに、あらかじめ大きくつかんでおくことをおすすめする。期末レポートのほかに、数回、小レポート提出を求める。実作とふれあう経験が不可欠。県内外の美術館を活用するように。						
質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp (a)は@						
教科書	なし。						
参考書	グザヴィエ・パラル・イ アルテ『美術史入門』白水社（クセジュ）、1999年 加藤哲弘『美術史学の系譜』中央公論美術出版、2018年 高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年 ゴンブリッチ『美術の物語』河出書房新社、2019年						